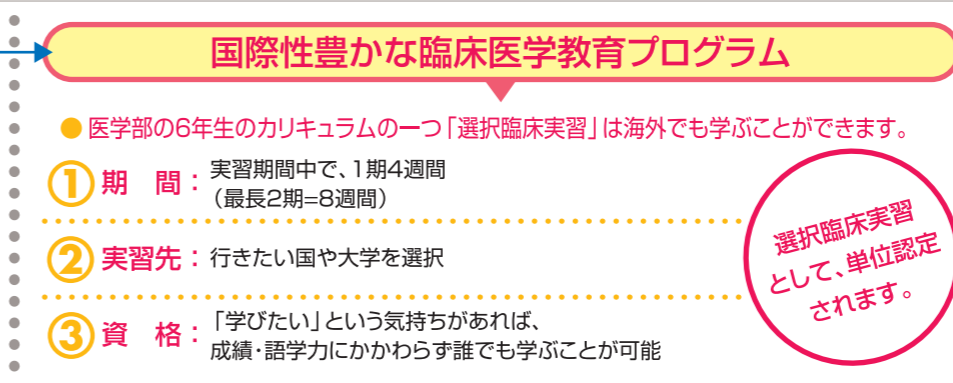
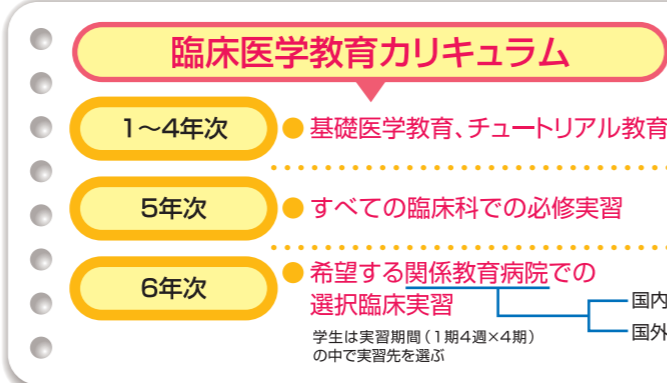
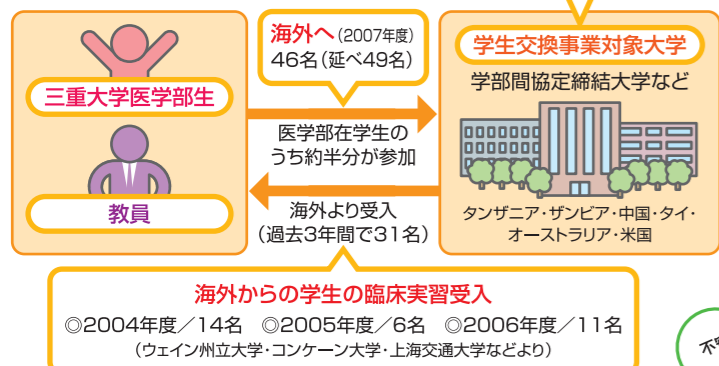


世界と地域で活躍する医療人の育成

三重大学の取り組み「海外医学部と連携した臨床医学教育」が、文部科学省の平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。

海外での医療・医学教育の経験が、これからの医学教育や地域医療に活かされることを期待されています。



参加した学生のうち、約98%が「臨床医として役に立つ」「後輩にも海外臨床実習を勧める」と答えています。学生の皆さんが、海外実習で視野を広げ、海外で学んだことを地域で活かしてくれることを期待しています。

堀 浩樹
(三重大学大学院医学系研究科・准教授)

◎ 選択臨床実習を海外で学ぶ

「命の尊さ」

地域に暮らす人々と共に生活することで、命を守るために何が必要とされるのかなど、より深い倫理観を養います。

タンザニアにある病院の新生児室では、毎日4～5人の赤ちゃんが死亡しています。その現実や医療体験を通して、「生きる」こと、「命」について学びます。

先進的な「医療と教育」

先進医療や先進的な医学教育に触れ、また医療技術を体験し、将来の指導者としての能力を養成。先進的な医療の担い手としての視野を広げます。

米国などの厳しく管理された臨床教育システムを実際に体験し、将来への展望につなげていきます。

「地域医療」の原点

発展途上国には、地域医療の原点があります。この実習では、地域医療の発展過程、限られた医療資源のなかでの保健・医療のあり方を学びます。

アジア・アフリカの発展途上国には、貧困や貧富の差などの社会的問題があります。医療を文化人類学的、倫理的、社会学的側面から考える機会です。

「熱帯地域特有」の病気

マラリア・デング熱・風土病などの輸入感染症の増加が懸念されています。様々な病気を体験し、診療能力を養います。

タンザニアやザンビアでは、新生児病棟に入院する赤ちゃんの約30%がHIVに感染しています。HIV感染症や結核、髄膜炎、赤痢などの日本では診療機会が少ない感染症について学びます。

